

定住自立圏構想推進シンポジウムin長崎の概要

開催日時 : 平成23年2月4日(金) 13:30~16:30

開催場所 : NBCソシア「メディア・ツー」 参加者数 : 189人

基調講演 : 一橋大学大学院教授 辻 琢也 氏

日本経済を活性化するには行政よりも、民間経済の頑張りが重要である。「地域」においても同じで、いかに民間が活力を発揮できるかが肝要。定住自立圏構想も、もっぱら行政組織を対象として効率化・広域化を進める行政圏構想なのではなく、あくまでも民間部門を含めた広域的発展・活用を意図したものである。



辻琢也氏

事例報告 : 宮崎県都城市企画部経営戦略課長 宮原 弘安 氏

「医療分野」はとりわけ重要な課題。都城北諸県圏域の二次救急告示病院が南部に集中しているという救急医療施設や機能の偏在があった。加えて医師不足による地域医療への影響も深刻。これらの解決策として、救急医療拠点施設の整備充実や医療連携の推進により県境を越えた官民の取組を行うこととしている。



宮原弘安氏

パネルディスカッション

○ 鳥取市長 竹内 功 氏

定住自立圏の取組として、小児科医、産婦人科医の相互派遣や、圏域内の関係市町が連携して山陰海岸ジオパークを推進している。定住自立圏構想は、合併が必ずしもうまくまとまらなかった地域でも、互いに連携を深めることで、地域の魅力を高めていくことができる。

○ 鹿屋市長 嶋田 芳博 氏

圏域共同で整備、運営する夜間急病センターが今年4月に開設予定。また、3月の九州新幹線全線開業効果を圏域各市町に波及させるための取組を進めている。定住自立圏構想のメリットは、厳しい財政状況の中で、市町が互いに補完しながら住民の生活に必要な機能を確保し、地域の課題に対応できること。

○ 宮崎県都城市企画部経営戦略課長 宮原 弘安 氏

過去に県境を越えた合併の話もあったと聞いているが、さまざまな制約があり実現できなかった。定住自立圏は、柔軟な仕組みによって互いの住民にメリットがある。また、定住自立圏域同士の交流により、圏域の更なるレベルアップが図られる。

○ 一橋大学大学院教授 辻 琢也 氏

定住自立圏構想発展のためには次の3つが重要。①これまでの広域行政や市町村合併の経緯を踏まえて、柔軟に連携していく必要があること。②各分野単位の広域化ではなく、あくまで広域圏全体の総合的な構想であることに立ち返ること。③分かりやすい象徴的な事業が住民のハートをつかむのに役立つこと。



竹内功氏 嶋田芳博氏